

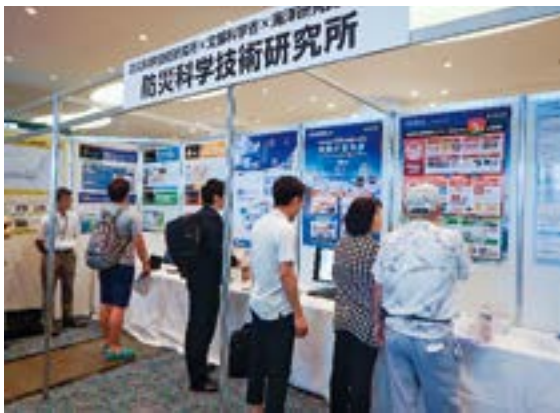
サマーコンファレンス2017

7月22日(土)にパシフィコ横浜で「サマーコンファレンス2017」が開催されました。防災科研は「最先端技術がここにある！未来のライフスタイルブース 未来へ繋ごう！防災まるごとブース」に出展し、さまざまな防災科研の取り組みについて紹介をしました。

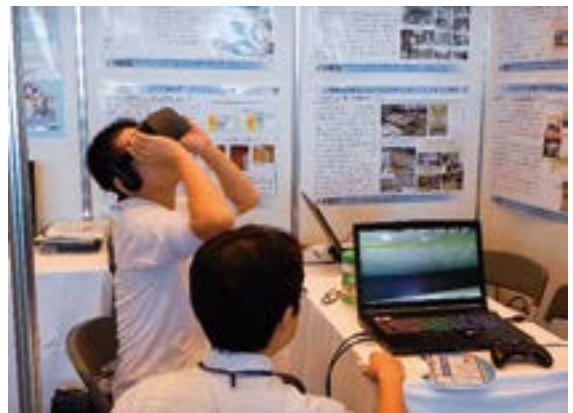
今回は、来場者の方にVR体験をしていただきました。VRは、実大三次元震動破壊実験装

置(Eーディフェンス)で行った地震の実験映像を用いており、体験内容もリアルに表現されています。

また、気象災害軽減イノベーションセンターが目指す「研究と人材の中核拠点」の構築や、レジリエント防災・減災研究推進センターでの研究の取り組みについても紹介させていただき、来場者の関心を集めていました。



ブースの様子



VR体験の様子

雪氷防災研究センター新庄雪氷環境実験所 一般公開

雪氷防災研究センター新庄雪氷環境実験所(新庄市)では一般公開を8月4日(金)に実施し、合計200名の方にご来場いただきました。例年、真夏のこの時期に開催し、雪や氷についての実験や体験を通じて雪氷災害に関する知識や関心を高めていただくことを目的としています。

マイナス10℃の雪氷防災実験棟の中で天然の雪にそっくりな人工雪が降るのを体験したり、風洞の中で樹氷が成長する様子を見学したりしていただきました。常温の部屋では、ペットボトルを用いた人工雪の作成実験や、強い光が当たると氷の中が花びらのような形に融ける現象などを紹介しました。また、雪崩や吹雪などの災害を予測するための研究紹介のパネルを展示し、研究員が説明を行いました。

今後も一般公開やイベントなどで、一般の方々に雪や氷の様々な現象を紹介して科学技術に関心を深めていただくとともに、私たちの研究所の防災への取り組みをご紹介します。



雪氷防災実験棟での人工降雪の体験と樹氷の形成実験

IAG-IASPEI 2017

7月30日(日)～8月4日(金)に神戸国際会議場で「IAG-IASPEI 2017」が開催されました。国際測地学協会 (IAG) 及び国際地震学・地球内部物理学協会 (IASPEI) は、ともに国際科学会議 (ICSU) に属する国際学会で、今年はIAGとIASPEIが合同で神戸において学術総会を開くことになり、63の国・地域から参加者が集まりました。防災科研は学会の併設展示会に出展し、

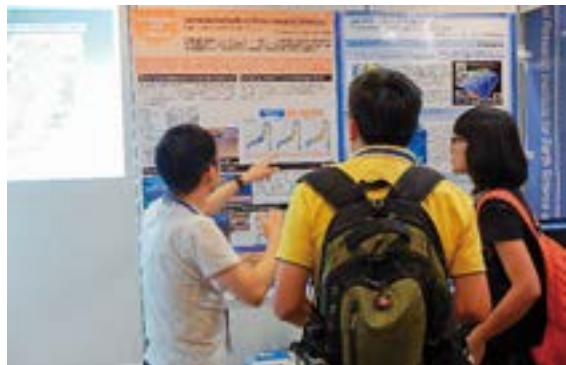


ブースの様子

研究所の取り組み、地震津波火山観測網などについての展示を行いました。

海外からの専門家の参加が多く、会場ではより専門的な質問が飛び交っていました。

実際に使用されている地震計や、地震津波予測技術の高度化などについて紹介し、多くの方の関心を集めていました。



プロジェクトの紹介

つくばちびっ子博士2017

防災科研 (つくば本所) では、つくば市・つくば市教育委員会が主催する「つくばちびっ子博士2017」にあわせ、防災教育活動の一環として、2企画を開催しました。

■「Dr.ナダレンジャーの自然災害科学実験教室」

7月25日(火)、8月8日(火)、22日(火)、29日(火)

防災教育の普及を目的に、Dr.ナダレンジャーがペットボトルや発泡スチロールブロックなどを使って、自然災害を再現する実験教室を行いました。毎回、親子連れで賑わい全8回で約1,600名の方にご来場いただきました。



瞬き厳禁、のぞき込んで見えるものは?!

■「豪雨体験」(大型降雨実験施設)

7月28日(金)

豪雨の怖さを実感し、防災に役立ててもらうことを目的に、1時間あたり300mmという豪雨体験を開催しました。

長靴を履き、傘をさしていてもずぶ濡れになってしまうほどの雨に、楽しみながらも豪雨の怖さも体験しました。

当日は約1,100名の方にご来場いただきました。



豪雨体験傘をさして突入!

受賞報告

平成29年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました

社会防災システム研究部門の藤原広行部門長（レジリエント防災・減災研究推進センター センター長兼任）が平成29年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞し、表彰式が9月8日（金）に総理大臣官邸で行われました。

今回の受賞は、全国強震観測網の整備および地震への備えを行う全国地震動予測地図の作成に貢献するとともに、政府の地震調査研究推進本部の委員等として提言を行うなど、藤原部門長が地震調査研究の推進に果たした功績が高く評価されたものです。

藤原部門長は防災科学技術研究所に入所して以来、一貫して地震防災に関する研究に携わり、全国的な強震観測網の整備や全国地震動予測地

図の作成、地下構造データベースの整備に関する研究プロジェクトを進め、これらの情報の活用を目指し、災害リスク情報プラットフォームの開発などに尽力してきました。数年前からは、リアルタイムでの地震被害の推定および状況の把握を行うためのシステム開発に取り組んでおり、熊本地震では研究成果の一部が災害対応に活用されました。

藤原部門長は「荣誉ある表彰をいただき感謝いたします。これまでの研究開発を支えてくださった多くの方々に感謝申しあげるとともに、今後も地震災害軽減に向けて研究を進めてまいります」と語っています。



編集・発行



国立研究開発法人 防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1 企画部広報課

TEL.029-863-7768 FAX.029-863-7699

URL : <http://www.bosai.go.jp> e-mail : k-news@bosai.go.jp

発行日

2017年9月29日発行 ※防災科研ニュースはWebでもご覧いただけます。